

独立行政法人 国立病院機構
四国こどもととなの医療センター

こもれび通信

Shikoku Medical Center for Children and Adults®

光と影、人物と植物、バランスを保ちながら循環する命の恵が、全ての人をこもれびのようにやさしく包み込みますように…

入院支援センターのご紹介

地域医療連携室 入院支援看護師 大浦 さやか

令和8年2月より、成人受付側に【入院支援センター】を開設いたしました。入院は、患者さんやご家族の生活環境を大きく変化させます。そのため、治療への不安だけでなく、入院の手続き・準備などの戸惑いも加わり、混乱してしまう方もいらっしゃるのではないのでしょうか。そのような時、患者さんやご家族に寄り添い不安の解消に努め、当院での入院生活への橋渡しをするのが入院支援センターです。

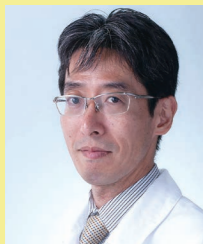
入院支援センターでは、予定入院の患者さんを対象に、入院が決まった直後からお話を丁寧に向います。これから始まる病棟での入院生活だけでなく、退院する時も安心してご自身の生活に戻れるようサポートをさせていただき専門部署が入院支援センターです。事前に入院支援センター看護師がお話を伺うことで、患者さんのご希望に寄り添い、不安が軽減するよう努めています。入院支援センターがある地域医療連携室には医療ソーシャルワーカーが在籍しているため、患者さんのかかりつけ医や担当ケアマネージャーとスムーズに連携を取り、入院前に必要な準備だけでなく退院後の患者さんの生活までサポートします。また、薬剤師・管理栄養士・リハビリスタッフなどと連携し、入院前から患者さん一人ひとりの生活背景を把握することで、安心・安全な医療をご提供いたします。

私たち入院支援センター看護師は、外来・病棟での看護経験を活かし、患者さんが入院後に直面する小さな不安や悩みにも、「今の患者さんのご様子やご家族の状況から考えると、入院中はここが大変になるだろう」といった視点を持ってお話を伺います。患者さんにとって一番身近なサポーターでありたいと願いながら、入院前にお話を伺うことで「この病院に任せれば大丈夫」という安心感を持っていただけるようご案内させていただきます。

「患者さんやご家族が、入院生活をイメージしやすく、安心してご準備ができる」「入院前から退院後の生活を見据えた相談ができる」ように、患者さんの不安が安心になるよう、最善の入院生活へとお繋ぎします。何かご不明・ご不安なことがありましたら、入院支援センター看護師までお声がけください。



3月4日に、第27期生の卒業式を行いました。67名の学生が卒業し、4月からはそれぞれ新たな道に進みます。善通寺看護学校で学んだことを胸に、本校の教育理念である智慧・創造・誠実を体現しながら、大きく羽ばたいてほしいと願っています。



上田修史 先生
泌尿器科医師

1 病院のココが自慢

こどももおとなも高い専門性を持って診療できること。

2 患者さんと接する時に大切にしていること

病状や治療法などについてわかりやすく安心できるように情報共有することを心がけています。

3 医師になろうと思ったきっかけは？

親に言われるがままでした(笑)

4 もし、医師になっていなかったら？

研究者、サラリーマン

5 先生が実施している健康法は？

筋トレ、ランニング(たまに)

6 当院に期待すること

中讃、香川の拠点病院として、安心して紹介、受診できる病院であること。

7 どっち？

犬派

猫派

朝食は

和食

洋食

休日は

インドア派

アウトドア派

8 好きなもの(こと) Best 3!

1 漫画

2 麻雀

3 ソシャゲ

9 フリースペース

受診してよかった、続けて治療を受けたいと思われる医師であるように精進中です。



独立行政法人 国立病院機構

四国こどもととなの医療センター

〒765-8507 善通寺市仙遊町 2-1-1 TEL 0877-62-1000 https://shikoku-mc.hosp.go.jp
交通機関 ▼善通寺 IC より車で5分 ▼JR土讃線善通寺駅下車徒歩25分

発行日 / 令和8年4月1日
発行者 / 前田 和寿
編集委員 / 広報委員会



支援学校との共同プロジェクト 『アサギマダラが飛来する庭』

2025. 11. 11

アートディレクター 森 合 音

地上庭園を地域に開かれた癒しの庭に育てる Healing Garden Project。
その一環として、四国こどもとおとなの医療センターと支援学校との協働プロジェクト“アサギマダラが飛来する庭”がスタートしました。
アサギマダラという蝶は、これまで10年間、画家のマスダヒサコさんと卒業生が、毎年、外壁に描いてきた蝶です。アサギマダラは海を渡り、2000キロ旅すると言われています。この、儚くも、逞もしい蝶には、支援学校の子どもたちへのエールが込められています。「精一杯、羽ばたいて、自分にできることをしたら、後は気流に乗って無理せず飛んでいきなさい。」と。

地上庭園に、いつか本物のアサギマダラを呼ぶ。それが Healing Garden Projectの目標です。
一年目の今年はレイズドベットを設置しました。レイズドベットとは、高さのある木製のプランターです。車椅子でも植物に手が届くような構造になっています。山一木材・KITOKURASUさんが制作してくださいました。支援学校で開催したワークショップでは、木片に色をつけてエコバックにスタンプして、蝶を描きました。
レイズドベットの側面に、支援学校の卒業生たちが、それぞれ、四つの木口を組み合わせて、自分の蝶を配置しました。ボンドが完全に接着できるまでは、青いマスキングテープで仮止めしました。その過程がとても素敵でした。

完成したレイズドベットに、ボランティアさんたちが土を入れて、そこにイチゴの苗を植えてくれました。さて、実をつけてくれるでしょうか。
これから、アサギマダラが好きなフジバカマも植える予定です。とても楽しみになってきました。

